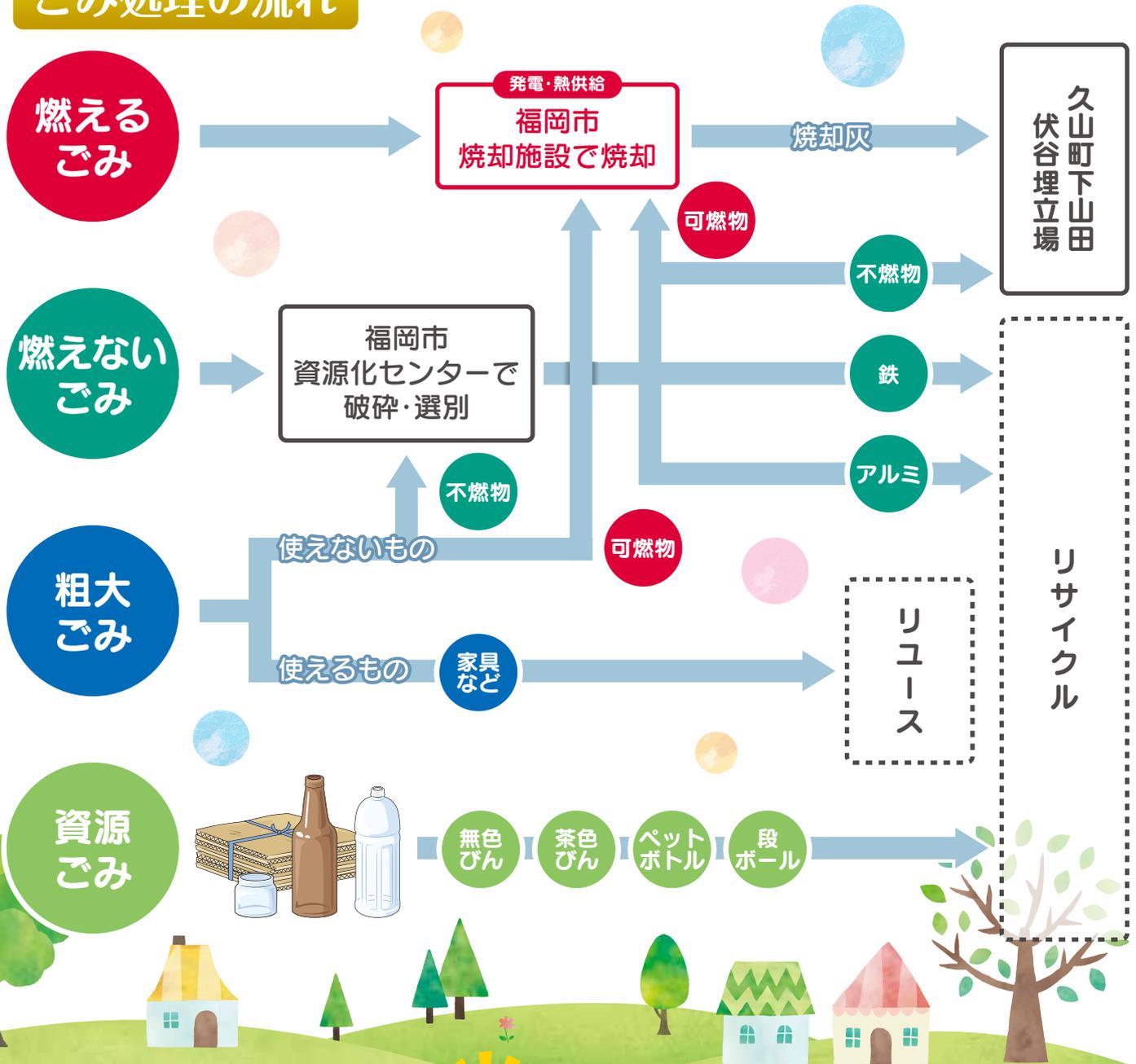


ごみ処理の流れ



燃えるごみでごみ発電

「燃えるごみ」は、焼却施設で焼却し、その熱を利用して発電(熱回収:サーマルリサイクル)を行っています。こうして得られた電気は焼却施設などで使うほか、電力会社へ売電し、電力として使用されます。また、熱(蒸気)は余熱利用施設などへ供給しています。

燃えないごみから鉄・アルミ回収

「燃えないごみ」のうち、空缶や鍋などの金属製品、小型の家電製品などの金属とプラスチックの複合製品などは収集後、資源化センターで破碎・選別処理して鉄とアルミを回収し、再資源化業者に引き渡しをすることでリサイクルしています。

資源ごみ

「無色のびん、茶色のびん、ペットボトル」についてはそれぞれ再資源化業者に引き渡しリサイクルを行っています。

地球にやさしい「福岡法式」の埋立技術で最終処分

熱焼却施設で焼却した後に出てくる灰などは、地球温暖化の原因となるメタンガスの発生を抑えるなど、環境への負荷の少ない「福岡法式」の埋立技術で久山町下山田伏谷埋立場に埋め立てています。